



田嶋 康利

3月12～14日の3日間、新潟県勤労者福祉厚生財団が主催する「社会的企業の起業研究」韓国ソウル市視察に、新潟協同ネット(2008年全国協同集会後に、実行委員会構成団組織を母体に立ち上げた協同労働のネットワーク組織：勤労者福祉厚生財団、新潟労福協、新潟労金、ささえあいコミュニティ生協新潟、ワーカーズコープセンター事業団北陸信越、渡邊登新潟大学教授等)のメンバーと共に参加した。

最初に、聖公会大学の金シンヤン教授による、韓国の社会的経済の発展の歴史と課題に関するレクチャーから始まり、ソウル市が立ち上げた社会的経済支援センターや青年仕事場ハブ、また社会的企業、自活企業の設立を支援している地域自活センター、ソンミサンマウルの住民主体のまちづくりなどの取組みを視察交流。

金教授によれば、1997年のIMF危機を契機に失業者克服国民運動、失業者事業団が市民の手で全国的な運動として広がり、2000年の国民基礎生活保障法の制定による地域自活センターが展開、2006年の社会的企業育成法から中間支援組織と社会的企業が大きく展開、2010年の統一地方選後から中央政府主導の社会的企業政策が地方の地域課題と結んで展開されている。そして、2013年の協同組合基本法制定から、緩やかなネットワーク組織として「韓国協同社会的経済連帯会議」が結成され、本年12月には「社会的経済基本法」が制定されるという。

報告の中で「韓国は欧州の伝統的な社会的経済に支えられて発展してきた社会的企業の展開と異なり、内外の圧力を背景に国の社会保障政策と合わせながら社会的企業などの支援策も国の制度に依存して発展してきた。国や行政と民間運動団体との関係は、『同居組織』『不便な同居』(離婚したいが別れられない関係)」と語られたことが印象的だった。

この視察の中で、印象に残った第1は、「空間」という言葉がキーワードとしてたくさん語られていたことである。国家の自立・就労政策がワークファースト(就職成功パッケージなど：雇用労働部の委託事業として、就職が困難な求職者に就労相談、1年間を期限に就職斡旋など段階的な個人総合就職支援を提供する事業)に傾斜する中で、社会的経済の側が次々に「空間」を立ち上げ、その場を活用して多様な人々が出会い、語り合い、プロジェクトを立ち上げ、新たな仕事も起こしていく取り組みが進んでいることである。視察した天安市の協同組合ウリドンネが立ち上げた「ネットワークスペース・サイ」(サイとは間の意味)では、若者たちがお互いに交流する場として、そのコンセプトに、共有空間(独立した労働者が交流する共有事務所)とコミュニティカフェ(居場所と交流スペース)の二つが設定されており、さまざまな企画が催されていた。これらの「空間」づくりの実践は、ワークファースト的な就労自立政策

に対する社会的経済の側からの対抗運動の柱の一つのようにも感じられた。

第2に、若者の自立就労支援にソウル市では政策的に力を入れており、4年間で115の若者社会的企業が立ち上がっていることである。ソウル市が立ち上げた「ソウル市青年仕事場ハブ」では、その責任者から「若者の失業率の高さを背景にこの青年仕事場ハブは創られた。この空間は、若者を支援するのではなく、若者が主体者として自らの未来を創る準備をする場。若者が変革の主体者になることを目指している。青年革新活動家事業として、社会的経済の領域での若者向けの公共勤労事業を活用、就労経験の場も創ってきた。若者の生態系(環境)をどうつくるのか、それが公共の役割」と語られたのが印象的であった。また、若い芸術家2人がソウル市の若者社会的企業育成事業を活用して、900ある裁縫工場(小規模の家族経営)の街チャンシンドン(貧困地域)で、「000間」(公共空間)を立ち上げて活動している実践の報告を現地で受けた。街の子どもの居場所として子供図書

館を立ち上げ、また裁縫工場から出る布切れを活用したアート、裁断箇所をうまく活用した洋服づくりなどを「ZERO WASTE」と名付けブランド化して販売する戦略を展開、東大門(トンデンモン)のショッピングセンターの下請けからの脱却をめざし、「ZERO WASTEは単なるブランドではなく、地域課題を解決していく、まちづくりの芸術プログラム」と語っているのが印象的であった。

この数年、私たち労協連は、韓国地域自活センターや京畿道地域自活センター協会、韓国労働者協同組合連合会準備会等との交流が進んでおり、韓国から視察訪問団を受け入れ交流を進めてきた。そして、いよいよ韓国において4月19日に韓国労協連が設立される運びとなり、そこへの激励の挨拶も込めて代表団の派遣を計画している。

東アジア地域における、社会的経済・連帯経済の発展と「協同労働」を基礎においた協同組合の発展をめざして、引き続き交流を実りあるものにしていきたい。